



→イチョウとアメリカカフウがすっかり落葉しました。
ふゆすみれ

マラソンの背と見守る冬董

運動場の東門から、激しい呼吸の音が迫ってくる。一人、すぐ後ろにもう一人と、頬を真っ赤にして。「がんばれ」と、運動場に響く声援に、残る力を振り絞って足を前に出す。試走のように、急に速度を上げる子がない。それだけの余力がないのだろう。運動場の東の上り坂でも歩かず、歯を食いしばって走り続けていた。

十二月十四日のマラソン大会に、胸が熱くなった。十五年ぶりに新記録を更新した二年生の今井陽咲さんはじめ、学年一位になった子の体力・気力の素晴らしさは言うまでもない。走るのが苦手だと言っていた子、体調を崩して思うように練習ができなかった子まで、「やろう」と決めて前向きにスタートラインに立てた。このことに、まずは拍手したい。この時点で強い心が備わっていたことが分かる。そのうえ、呼吸は苦しく、足が思うように上がらなくなるほどに持てる力を出し続け、最後まであきらめずに走り切った。見事である。この一人一人の気力に心動かされた。



十月、「FCマルヤス岡崎」のサッカー選手による高学年に向けたキャリア教育の授業を開催した。その中で山田選手は、「小さな目標でも真面目にひたむきに取り組めば、大きな手ごたえを得られる」と話された。内田選手は、「人に笑われるくらい大きな夢をもち、笑われてもそれを周りに言うことで、自分の夢や目標を実現する一歩につながる」と教えてくれた。そんな選手に反応して自分の夢を語ってくれた子、友達の夢を笑わずに応援しようと考えた子、あきらめかけていた夢をもう一度意識した子、お父さん、お母さんの仕事に憧れ、目標にしようと考えた子などが現れた。

マラソン大会までを振り返ったとき、特に印象に残っているのが、かけ足訓練直後の放課に、毎日自ら走っていた子の姿である。軽く流して走る足の速い上級生を抜かし、自分のペースを保って練習を続ける意思の強さ。それに加えて、雨でかけ足訓練が中止になったことを残念がる声を聞き、努力する楽しさも味わっていたのだと感心した。大会の順位では、目標を達成できなかった子もいる。しかし、弱い心や怠け心に打ち勝ち、努力する行動力を身に着けたことは何物にも代えがたい。

人には得手不得手がある。だから、得意なことでも活躍できないのが理想である。しかし、苦手なことにも一人で立ち向かわなければならぬときがある。そんなときには、今回のマラソン大会を思い出すとよい。苦手を乗り越え、力を尽くす経験をした皆が、自分には努力する力があると信じてほしい。冬休みは、家族とともにこの一年で頑張ったことを振り返りつつ、十分に充電できることを願っている。令和六年の幕開けをすがすがしい気持ちで迎え、夢や目標を胸にしっかりと抱けるように。

